

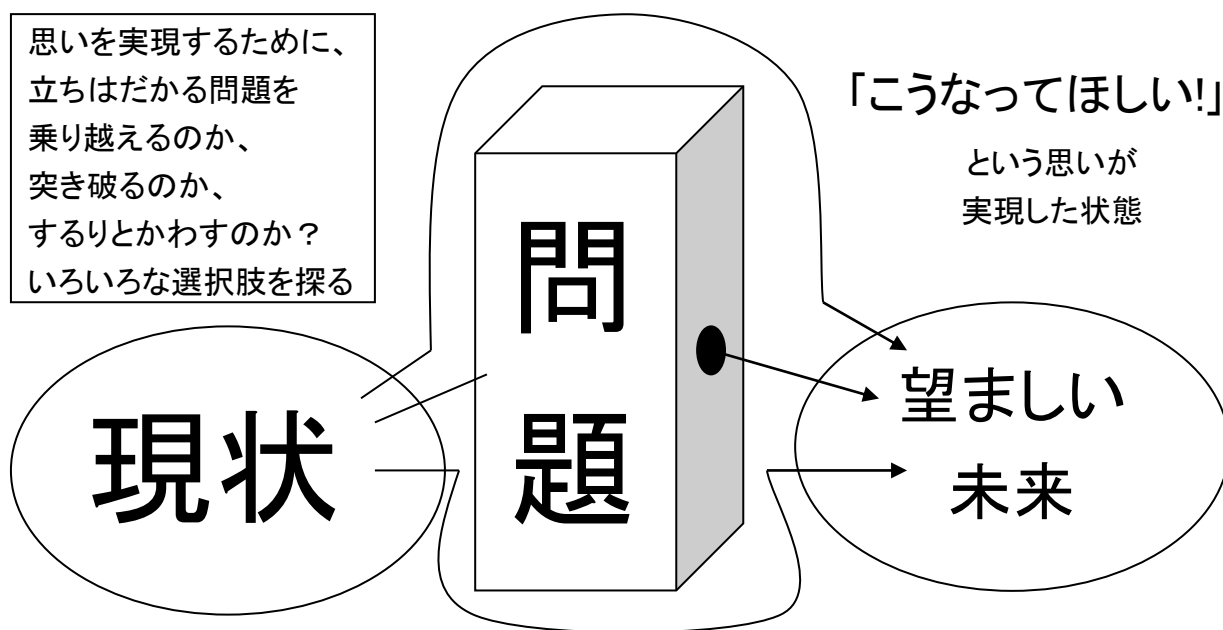
■ 「思いを身体で形にするワークショップ」(自称)と、基になった海外の実践

・フィリピン演劇教育協会(PETA)の民衆演劇(people's theater)との出会い 民衆＝「普通の人」

コミュニティ(同じ地域の人々、またはテーマを共有する人たちの集まり)の夢や目標の達成や、起きている問題の解決策を考える「ツール」として演劇を使う

劇を使う…自分たちの周りで起きている状況や起こりそうな問題、こうなってほしいという望ましい未来の状況、どうすればそれを実現できるかなどを、自分たちの身体で表現する

表現する過程で、状況をとリまく様々な当事者(＝登場人物)の視点から、状況をとらえなおす事ができる。(頭で考えるだけでは得られにくい情報。「身体で感じる」ことを重視。)



・フォーラムシアター(観客参加型・討論劇)…ブラジルのアウグスト・ボアールが 70 年代に創始

問題が起きている状況の劇を観客に見せる(問題提起)

劇を創って演じるのは、その問題の当事者が望ましい

観客もその問題の当事者

または関心のある人が望ましい

当事者

問題提起

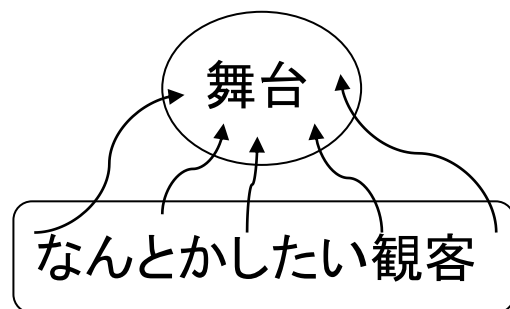
当事者/関心のある人

観客の試行錯誤によって、望ましくない現状を「こうなってほしい」という状況に変えるためにはどうすればいいか、問題解決のための様々な選択肢を探る(「現実のリハーサル」とも言われる)

★地域の課題について考えながら場を活性化するために最適!★

■フォーラムシアターの進め方

- 1、問題提起のために、問題が起こって解決しないまま終わる、アンハッピーエンドな劇を作っておく
- 2、その問題の当事者や関心のある人たちに、観客として集まってもらう
- 3、1 度目の劇の上演。どうすれば問題を解決できるか考えながら観てもらおう。(解決しないまま終わってしまうので、観客はすっきりしない。むしろ「何とかしたい！」と思ってもらおう)
- 4、観客への呼びかけ:「登場人物の代わりに、あなたならどうしますか？何とかしたい！こんなこともできるんじゃないか？どうしていいかわからないけど、とりあえず何かしたい！という方はぜひ舞台上がって、行動に移してみてください」



- 5、2 度目の上演。随時観客が手を挙げて舞台上がり、登場人物に成り代わって行動する。
役者は即興でそれに対応する(うまく対応できるように、問題を熟知している当事者が演じるのが望ましい)。
はたして、問題は解決するのか、
多少はましになるのか、余計ひどくなるのか？

- 6、観客からはどう見えたのか、舞台上がった観客、それに対応した役者はそれぞれどう感じたか？感想を共有し、うまくいった方法からも、うまくいかなかった方法からも、学びを深めていく。
- 7、時間と場の状況を見ながら、5・6 を繰り返し、様々な選択肢・可能性を探っていく。

■ 「普通の人々の演劇」・・・誰でもできるように工夫されています！

今日(フォーラムシアター上演)の進め方

ウォーミングアップ・・・参加者同士の交流を深め、緊張をほぐし、楽しんでいるうちに

↓ 　　いつの間にか「動ける身体」になっていく

フォーラムシアター上演



フォーラムシアターをゼロから自分たちで創る時の進め方

ウォーミングアップ

↓

「人間彫刻」で表現　セリフを言ったり動いたりするのは、いきなりは難しいので、まずは静止した状態で場面を表現(この段階では、「問題」＝ネガティブな側面より、「望ましい未来」＝ポジティブなビジョンに先に目を向けることも多い)

↓

劇づくり

観客に見せる前の、劇を創る段階でも発見は多い。

例えば、自分とは立場の違う人を演じることで、その立場への理解が深まる、など

★ 地域の課題を、演劇を使って一緒に楽しく考えてみませんか？★